

令和2年度 学校評価集計表

坂井市立兵庫小学校

項目	重点目標	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者	取組番号	人数		割合	A+B			成果と課題	改善策・向上策
							人数	割合						
A 確かな学力の育成	①わかる・できる授業の推進	わかる・できる授業の推進に努める。 (取組指標)	授業のユニバーサルデザイン化に A 十分に取組めた。 B おおむね取組めた。 C あまり取組めなかった。 D ほとんど取組めなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員1	1	計 9 A 0 0% B 9 100% C 0 0% D 0 0%	100%	90%			・教職員は日頃から授業のユニバーサルデザイン化に取り組み、基礎、基本の定着を図るための指導ができた。 ・授業がよくわかっている児童の割合は大変高い。また、毎月の漢字テスト、計算テストでは約9割の児童が90点以上をとることができたが、なかなか90点以上をとれない児童も数%いる。	・教員は、児童の基礎基本の定着のために授業研究に全力を注ぎ、毎回の授業で確実な定着がなされるよう努める。 ・漢字の日計算の日のテストに向けて、目標点数だけでなく、その点数のために何をするかという目標を毎回必ず立てることで意識を高める。また、事前に練習問題を解くことで点数に結びつき、やればできるという喜びを味わわせられるよう、練習問題の内容やテストの難易度を毎回吟味する。 ・前回よりも得点が上がった児童や高得点の児童には賞シールを貼るようにし、達成感をもたせる。 ○タブレットを活用した授業実践に努める。	
		自己肯定感が高まっている。 (満足度指標)	授業が A よくわかる。 B だいたいわかる。 C あまりわからない。 D ほとんどわからない。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	児童1	2	計 121 A 79 65% B 37 31% C 5 4% D 0 0%	96%	90%					
		漢字・計算の日を活用し、基礎的な知識・技能の定着に努める。 (取組指標)	基礎・基本の定着を図るための計画的な指導が A 十分にできた。 B おおむねできた。 C あまりできなかった。 D ほとんどできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員2	3	計 9 A 3 33% B 6 67% C 0 0% D 0 0%	100%	90%					
		漢字・計算の練習に取り組んでいる。 (成果指標)	毎月の漢字テストと計算テストが A いつも90点以上だった。 B だいたい90点以上だった。 C 1・2回、90点以上だった。 D 90点以上ではなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	児童2	4	計 119 A 61 51% B 45 38% C 10 8% D 3 3%	89%	80%					
		基礎的な知識・技能の定着に取り組んでいる。 (満足度指標)	学校は、基礎・基本(漢字・計算)の定着に A よく取り組んでいると感じる。 B おおむね取り組んでいると感じる。 C あまり取り組んでいないと感じる。 D ほとんど取り組んでいないと感じる。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	保護者1	5	計 122 A 72 59% B 48 39% C 2 2% D 0 0%	98%	80%					
		読む力・考える力の育成に努める。 (取組指標)	新聞等の多様な教材の活用や意見交換・議論を行うなど指導の工夫が A 十分にできた。 B おおむねできた。 C あまりできなかった。 D ほとんどできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員3	6	計 9 A 0 0% B 8 89% C 1 11% D 0 0%	89%	90%					・教職員は一名を除き、新聞等の多様な教材の活用や意見交換・議論を行うなど指導の工夫が概ねできた。 ・他の人の意見を聞いて自分の考えをまとめるという点について、児童の目標指数は達成した。
	②読む力・考える力の育成	進んで意見交換や議論などを行っている。 (成果指標)	他の人の意見をしっかりと聞いて自分の考えをまとめることが A よくできた。 B だいたいできた。 C あまりできなかった。 D ほとんどできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	児童3	7	計 121 A 46 38% B 63 52% C 10 8% D 2 2%	90%	80%				・引き続き辞書の活用、新聞や本などの情報にふれる機会を取り入れ、知識を増やす。	
		③話す力・表現する力の育成	話す力・表現する力の育成に努める。 (取組指標)	学級でのスピーチや全校での発表など表現する場と方法の工夫が A 十分にできた。 B おおむねできた。 C あまりできなかった。 D ほとんどできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員4	8	計 8 A 2 25% B 6 75% C 0 0% D 0 0%	100%	90%			・全教職員が学級でのスピーチなど発表の工夫をすることができた。 ・自分の思いや考えを他の人に伝えるという点について、児童の目標指数は達成した。しかし、個人差は大きいと思われる。	・「はなしのやくそく」や「学習の約束」は、学年始めに共通理解して、教室掲示し、継続して指導する。 ・国語の「話す・聞く」の学習をふまえ、どの教科でもグループ学習や話し合い学習など学習過程を工夫し、対話的で深い学びになるように単元の計画を立て実践する。 ○コミュニケーション能力の育成に努める。
	③話す力・表現する力の育成	進んで表現する活動に取り組んでいる。 (成果指標)	自分の思いや考えなどを他の人に伝えることが A よくできた。 B だいたいできた。 C あまりできなかった。 D ほとんどできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	児童4	9	計 121 A 57 47% B 46 38% C 16 13% D 2 2%	85%	80%					

令和2年度 学校評価集計表

坂井市立兵庫小学校

項目	重点目標	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者	取組番号	人数	割合	A+B	成果と課題	改善策・向上策
B 豊かな心の育成	①魅力ある学校づくりの推進	受容的な学校・学級づくりの推進に努める。 (取組指標) 【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	安心できる集団づくり、楽しい授業づくりに A 十分に取組めた。 B まあまあ取組めた。 C あまり取組めなかった。 D ほとんど取組めなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員5	10	計 9 A 4 44% B 5 56% C 0 0% D 0 0%	100%	90%	・いずれの項目も目標値は上回っているが、「学校があまり楽しくない」「ぜんぜん楽しくない」という児童が5%いることを、真摯に受け止め、一人一人の児童にとって居心地のよい学校づくりを、今後も目指していかなければならない。 ・学期毎に行う「心のアンケート」や「教育相談週間」を活用し、いじめや悩みを抱えている児童の把握に努めることができた。児童の変容については、児童理解共有シートや月1回の会議などで、逐次情報交換を行うことができた。	・日常的な会話や「心のアンケート」「教育相談週間」を通して、児童の悩み等を早期に発見していく。 ・児童が元気に学校に通えるように、今後も家庭との連携を密にしていく。 ・悩みを抱えている児童等については、全職員で問題解決に当たるとともに、スクールカウンセラーや坂井支援センター等の外部機関も活用していく。 ・福井県版ポジティブ教育プログラムの取り組みを活用し、児童の自己有用感や学級への適応感を高め、いじめや不登校を未然に防ぐ。
		自己有用感が高まっている。 (満足度指標) 【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	学校・学級が A とても楽しい。 B まあまあ楽しい。 C あまり楽しくない。 D ぜんぜん楽しくない。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	児童5	11	計 121 A 88 73% B 27 22% C 5 4% D 1 1%	95%	90%		
		いじめ・不登校の未然防止に努める。 (取組指標) 【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	児童の個別指導と情報交換の充実に A 十分に取組めた。 B おおむね取組めた。 C あまり取組めなかった。 D ほとんど指導に取り組めなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員6	12	計 9 A 3 33% B 6 67% C 0 0% D 0 0%	100%	90%		
		いじめ・不登校の未然防止に取り組んでいる。 (満足度指標) 【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	学校は、子どもの悩みや困っていることに A よく対応していると感じる。 B おおむね対応していると感じる。 C あまり対応していないと感じる。 D ほとんど対応していないと感じる。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	保護者2	13	計 122 A 39 32% B 78 64% C 5 4% D 0 0%	96%	90%		
		地域人材や施設等の積極的な活用に努める。 (取組指標) 【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	地域の人材を生かした農業体験学習に A 十分に取組めた。 B おおむね取組めた。 C あまり取組めなかった。 D ほとんど取組めなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員7	14	計 9 A 4 44% B 5 56% C 0 0% D 0 0%	100%	90%	・コロナ禍という制限のある中で、児童の成長に必要な行事を精選して行うことができた。 ・年間を通しての縦割り活動を行うことはできなかったが、適切な時期を見て、異学年での交流を行ったことは、どの学年の児童にとっても大切な気づきを得ることができた。 ・農業体験を中心に、地域の方々には大変お世話になり、ありがたかった。	・新しい生活様式の中で、どのような行事をどのような方法で行うのが、児童の成長にとって有意義なのかを見極め、行事を計画していく必要がある。 ・体験活動は、児童にとって大変有意義な活動であるので、教職員・児童とも負担増にならないよう、内容等を精選していく。
		農業体験学習に積極的に取り組んでいる。 (満足度指標) 【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	作物や植物を育てる学習が A とても楽しかった。 B まあまあ楽しかった。 C あまり楽しくなかった。 D ぜんぜん楽しくなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	児童6	15	計 121 A 91 75% B 25 21% C 3 2% D 2 2%	96%	90%		
	異学年との交流学習の実践に努める。 (取組指標) 【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	縦割り班での交流や他学年との交流に A 意図的・計画的に取り組めた。 B おおむね取組めた。 C あまり取組めなかった。 D ほとんど取組めなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員8	16	計 9 A 3 33% B 5 56% C 1 11% D 0 0%	89%	90%			
	交流学習に進んで取り組んでいる。 (満足度指標) 【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	ほかの学年の人との交流が A とても楽しかった。 B まあまあ楽しかった。 C あまり楽しくなかった。 D 楽しなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	児童7	17	計 121 A 76 63% B 41 34% C 4 3% D 0 0%	97%	90%			
	③道徳・人権・特別支援教育の推進	道徳の授業の充実に努める。 (取組指標) 【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	考え、議論する道徳の授業の実践や家庭と連携した道徳教育に A 十分に取組めた。 B おおむね取組めた。 C あまり取組めなかった。 D ほとんど取組めなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員9	18	計 8 A 0 0% B 7 88% C 1 13% D 0 0%	88%	90%	・保護者、児童の数値は目標に達しているが、数値に満足することなく、今後も道徳教育に力を入れていく。 ・お互いのがんばりやよさを認め合う活動を意図的に行うことが、居心地のよい学級集団づくりに有効であった。	・道徳のポートフォリオは、児童の変容に気づくことができるので、今後も継続していくとよい。 ・教職員自らが、児童のよさを認め声をかけをする姿勢を見せることで、お互いの違いを認め合う温かい雰囲気のある学校、学級づくりに努める。
		我が子の道徳性が身についていると感じる。 (満足度指標) 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	お子様は、道徳性が A 十分に身についていると感じる。 B おおむね身についていると感じる。 C あまり身につけていないと感じる。 D ほとんど身につけていないと感じる。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	保護者3	19	計 122 A 27 22% B 84 69% C 11 9% D 0 0%	91%	80%		
		インクルーシブ教育や人権意識を高める指導の工夫に努める。 (取組指標) 【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	自他の人権を尊重し、一人一人のよさを認め合う集団づくりに A 十分に取組めた。 B おおむね取組めた。 C あまり取組めなかった。 D ほとんど取組めなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員10	20	計 9 A 2 22% B 6 67% C 1 11% D 0 0%	89%	90%		
		互いのちがいを認め合いながら仲良く活動している。 (成果指標) 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	友達の良いところを見つけ、仲良くすることが A よくできた。 B だいたいできた。 C あまりできなかった。 D ほとんどできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	児童8	21	計 121 A 76 63% B 39 32% C 5 4% D 1 1%	95%	80%		

令和2年度 学校評価集計表

坂井市立兵庫小学校

項目	重点目標	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者	取組番号	人数		割合	A+B			成果と課題	改善策・向上策
							人数	割合						
C 健やかな体の育成	①健康教育の充実	健康への関心を高め、実践する指導の充実を努める。 (取組指標)	感染症予防のための手洗い・検温等の指導が A 十分にできた。 B おおむねできた。 C あまりできなかった。 D ほとんどできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員11	22	計	11		100%	90%	・朝の体調チェック、こまめな手洗い、アルコール消毒、マスク着用が徹底されていることもあり、保健室入室者が例年より減った。 ・今後も引き続き、朝の体調チェックやこまめな手洗い、アルコール消毒、マスク着用等が徹底されるよう指導を継続していく。 ○来校者の体温チェックができるようにする。		
		【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	手洗いや家での検温など、病気の予防が A よくできた。 B だいたいできた。 C あまりできなかった。 D ほとんどできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	児童9	23	計	121		97%	90%			
		健康への関心が高まっている。 (成果指標)	お子様は、家での検温や手洗いなど感染症予防が A 毎日、きちんとできた。 B だいたいできた。 C あまりできなかった。 D ほとんどできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	保護者4	24	計	122		93%	90%			
		【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	交通安全の指導をとおして、安全意識の向上に取り組む。 (取組指標)	集団登下校の安全指導が A 十分にできた。 B おおむねできた。 C あまりできなかった。 D ほとんどできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員12	25	計	10		100%			90%
		健康を意識した生活習慣が身についている。 (成果指標)	ルールを守って、集団登校・下校が A いつもできている。 B だいたいできている。 C あまりできていない。 D ほとんどできていない。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	児童10	26	計	121		95%	90%			
		【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	防災・防犯訓練で自ら判断する力の育成に A 十分に取組めた。 B おおむね取組めた。 C あまり取組めなかった。 D ほとんど取組めなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員13	27	計	9		100%	90%			
	②交通安全教育の充実	交通安全の指導をとおして、安全意識の向上に取り組む。 (取組指標)	集団登下校の安全指導が A 十分にできた。 B おおむねできた。 C あまりできなかった。 D ほとんどできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員12	25	計	10		100%	90%	・関係機関の協力を得ながら、実践的、効果的な交通安全教室やひまわり教室を実施することができた。HPIにアップされている交通安全に関する動画を活用しながら、学級指導も充実させることができた。	・生活場面を想定したより実践的な内容の交通安全教室、ひまわり教室を実施する。教育活動全体を通して、より一層の安全教育の充実を図る。	
		【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	ルールを守って、集団登校・下校が A いつもできている。 B だいたいできている。 C あまりできていない。 D ほとんどできていない。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	児童10	26	計	121		95%	90%			
		安全意識が高まっている。 (成果指標)	防災・防犯訓練で自ら判断する力の育成に A 十分に取組めた。 B おおむね取組めた。 C あまり取組めなかった。 D ほとんど取組めなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員13	27	計	9		100%	90%			
		【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	学校の交通安全指導、防災・防犯避難訓練や危機管理に対して A とでも満足している。 B ある程度満足している。 C あまり満足していない。 D 全く満足していない。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	保護者5	28	計	122		93%	80%			
		安全意識が向上している。 (満足度指標)	縦割り班による体力づくり活動では、児童の活動を A 年間を通して、十分に支援できた。 B おおむね支援できた。 C あまり支援できなかった。 D ほとんど支援できなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員14	29	計	9		89% ▼	90%			
		【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	「らんなタイム」に熱心に取り組んでいる。 (成果指標)	「らんなタイム」では、最後までがんばることが A よくできた。 B だいたいできた。 C あまりできなかった。 D ほとんどできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	児童11	30	計	121		95%			80%
③防災・防犯教育の充実	避難訓練の指導をとおして、防災意識の向上に取り組む。 (取組指標)	学校の交通安全指導、防災・防犯避難訓練や危機管理に対して A とでも満足している。 B ある程度満足している。 C あまり満足していない。 D 全く満足していない。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	保護者5	28	計	122		93%	80%	・児童や教職員にとって、実践的な訓練となり、大変良かった。児童への事前事後指導をしっかりと行うことで、防災や防犯に対する理解を深めることができた、より意識を高めることができた。	・今回の訓練で出てきた新たな課題については検討し、関係機関と連携しながら実施していく。 ○男性教員だけでなく女性教員にもさすまたの使い方の訓練をするようにする。		
	【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	縦割り班による体力づくり活動では、児童の活動を A 年間を通して、十分に支援できた。 B おおむね支援できた。 C あまり支援できなかった。 D ほとんど支援できなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員14	29	計	9		89% ▼	90%				
	避難訓練や緊急時の対応など、安心安全な学校づくりに取り組んでいる。 (満足度指標)	「らんなタイム」に熱心に取り組んでいる。 (成果指標)	「らんなタイム」では、最後までがんばることが A よくできた。 B だいたいできた。 C あまりできなかった。 D ほとんどできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	児童11	30	計	121		95%			80%	
	【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	「らんなタイム」の充実を努める。 (取組指標)	「らんなタイム」の充実を努める。 (取組指標)	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員14	29	計	9		89% ▼			90%	
	【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	「らんなタイム」に熱心に取り組んでいる。 (成果指標)	「らんなタイム」に熱心に取り組んでいる。 (成果指標)	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員14	29	計	9		89% ▼			90%	
	【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	「らんなタイム」の充実を努める。 (取組指標)	「らんなタイム」の充実を努める。 (取組指標)	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員14	29	計	9		89% ▼			90%	
④体力づくりの推進	「らんなタイム」の充実を努める。 (取組指標)	「らんなタイム」の充実を努める。 (取組指標)	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員14	29	計	9		89% ▼	90%	・前期においては、感染症予防をしながらの「らんなタイム」を確保できた。 ・ただ走るだけではない体力向上の手立てを考え(感染症予防を加味したうえで)、児童がより熱心に「らんなタイム」に取り組むことができるようになる必要がある。	・縦割り班を活用し、曜日ごとに人数を分けながら、なわとびの技を教え合うなど体力向上のための取り組みを実施していく。		
	【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	「らんなタイム」の充実を努める。 (取組指標)	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員14	29	計	9		89% ▼	90%				
	健康への関心が高まっている。 (成果指標)	「らんなタイム」に熱心に取り組んでいる。 (成果指標)	「らんなタイム」に熱心に取り組んでいる。 (成果指標)	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員14	29	計	9		89% ▼			90%	
	【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	「らんなタイム」の充実を努める。 (取組指標)	「らんなタイム」の充実を努める。 (取組指標)	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員14	29	計	9		89% ▼			90%	
	健康を意識した生活習慣が身についている。 (成果指標)	「らんなタイム」に熱心に取り組んでいる。 (成果指標)	「らんなタイム」に熱心に取り組んでいる。 (成果指標)	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員14	29	計	9		89% ▼			90%	
	【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	「らんなタイム」の充実を努める。 (取組指標)	「らんなタイム」の充実を努める。 (取組指標)	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員14	29	計	9		89% ▼			90%	

令和2年度 学校評価集計表

坂井市立兵庫小学校

項目	重点目標	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者	取組番号	人数			割合	A+B		成果と課題	改善策・向上策
							計	人数	割合					
D 開かれた学校づくり	①あいさつ運動の継続	あいさつ運動の継続に努める。 (取組指標) ○	教師自らが気持ちのよいあいさつを A 積極的にすることができた。 B おおむねすることができた。 C あまりできなかった。 D ほとんどできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90% 未滿の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員 15	31	計 11 A 9 82% B 2 18% C 0 0% D 0 0%	100%	90%			・あいさつ名人の取組、全校集会での名人紹介が効果的だったようで、以前と比較してずいぶんあいさつがよくなったと感じる。	・今後もあいさつ名人の取組を継続していく。	
		【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	大きな声で、相手の顔を見てあいさつが A いつもできている。 B だいたいできている。 C あまりできていない。 D ほとんどできていない。	回答者のAまたはBと判断した割合が90% 未滿の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	児童 12	32	計 121 A 55 45% B 49 40% C 14 12% D 3 2%	86%	90%					
		いつも進んであいさつができている。 (成果指標)	お子様は、あいさつが A よくできている。 B だいたいできている。 C あまりできていない。 D ほとんどできていない。	回答者のAまたはBと判断した割合が90% 未滿の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	保護者 6	33	計 122 A 38 31% B 59 48% C 24 20% D 1 1%	80%	90%					
		【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	積極的な情報発信に努める。 (取組指標) ○	お便りやホームページなどで情報発信が A 積極的にできた。 B おおむね計画的にできた。 C あまりできなかった。 D 全くできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90% 未滿の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員 16	34	計 11 A 3 27% B 8 73% C 0 0% D 0 0%	100%	90%			・ホームページをほぼ毎日更新し、充実させたことにより、学校の様子が保護者によく伝わったようである。	・児童の活動予定をもれなく校長に伝えるようにし、さらなるホームページの充実を努める。 ・動画の配信回数を増やしていく。
		積極的な情報発信 (満足度指標)	お便りやホームページなどで学校の様子が A よくわかる。 B だいたいわかる。 C あまりわからない。 D ほとんどわからない。	回答者のAまたはBと判断した割合が90% 未滿の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	保護者 7	35	計 122 A 63 52% B 53 43% C 6 5% D 0 0%	95%	90%					
		【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	保幼小連携、小中連携に取り組む。 (成果指標)	保幼小連携や小中連携に A 十分に取り組み、成果があると感じる。 B 取り組み、ある程度成果があると感じる。 C 取組んだが、あまり成果はないと感じる。 D ほとんど取り組みなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90% 未滿の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員 17	36	計 9 A 3 33% B 5 56% C 0 0% D 1 11%	89%	90%				・4月の授業参観の案内をるんびに保育園にも送るようにし、職員間の保幼小交流の場を設けるようにする。
	④ネット利用に関する家庭と連携した指導実践	家庭と協力してスマートルール推進運動を実践する。 (取組指標)	スマートルールの取組について A 定期的に指導できた。 B ほぼ定期的に指導できた。 C あまり指導できなかった。 D ほとんど指導できなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90% 未滿の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員 18	37	計 8 A 1 13% B 7 88% C 0 0% D 0 0%	100%	90%			・目標値には達しなかったが、ふくいスマートルールをもとにしたわが家のスマートルールを作る機会を設けたことにより、昨年度と比較してわずかではあるが改善しているようである。	・ルールが定着するようさらに家庭と連携する必要がある。PTA総会時に保護者向けの講演会を開催したり、児童に対しては、専門家による出前授業を実施したりして意識が高まるような取組を工夫する。 ○特に、家庭での動画等の視聴について、全校共通のルール作りを検討する。	
		【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	スマートルールを A いつも守っている。 B だいたい守っている。 C あまり守れていない。 D ほとんど守れていない。	回答者のAまたはBと判断した割合が80% 未滿の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	児童 13	38	計 121 A 45 37% B 52 43% C 14 12% D 10 8%	80%	80%					
		スマートルール推進運動に取り組んでいる。 (成果指標)	お子様は、スマートルールを A よく守っている。 B だいたい守っている。 C あまり守っていない。 D ほとんど守っていない。	回答者のAまたはBと判断した割合が80% 未滿の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	保護者 8	39	計 122 A 23 19% B 53 43% C 41 34% D 5 4%	62%	80%					
		【目標指数】 A+Bの合計が80%以上												